

## 【三峰山および表参道コース】

三峰山は、秩父市の南にある秩父多摩甲斐国立公園の北端に位置している。ミツミネという名は「三つの峰」を意味し、もともと妙法ヶ岳（1,332 m）、白岩山（1,921 m）、および雲取山（2,017 m）の3つの近郊の山頂を指していた。三峰神社は、神社からその特徴的な輪郭を眺めることができるため、これらの峰にちなんで命名された。そして、時が経つにつれて、三峰神社がある場所は三峰山として知られるようになったのである。

三峰神社は、日本武尊によって創建されたと言われており、その父親は、日本の伝説上の第十二代天皇であった。平安時代（794～1185年）には、三峰神社は神道、道教、仏教、山岳修道の要素を取り入れた信仰である修験道の中心となっていた。江戸時代（1603～1868年）には、神社への参拝客の安定した流れがあり、参拝客は、山のふもとから続く2つの巡礼路のうちの1つを通して神社を訪れていた。今日ではこれらのルート、つまり「主要路（表参道）」と「裏路（裏参道）」は、国立公園を通る人気のハイキングコースである。

神社へ続く表参道は、大輪バス停近くの鳥居から始まる3.2 kmのハイキングコースとなっている。このコースは、荒川峡谷にまたがる深紅色の登竜橋を渡って続いている。さらに先の道では道沿いに多くの石碑を見ることができ、大きなスギとヒノキの木が並んでいる。春には、道に沿って白いウツギの花が咲き、倒れた丸太や巨石は鮮やかな緑の苔で覆われる。途中、参拝者は清浄の滝で休憩を摂ることができる。この滝は、かつて参拝者が神社を訪れる前に自分を清めるために立ち寄った場所であった。

さらに半キロメートル進むと、医王如来である薬師如来が祀られていた薬師如来堂の跡がある。ここでは、病氣やけがをした旅行者を介抱するための休憩所でもあった。何世紀にもわたって、薬師如来堂は、女性の入山が許される最も標高が高い地点でもあった。修験道の多くの場所を「女性立入禁止（女人結界）」とするこの慣行は、明治初期（1868～1912年）に廃止された。

薬師堂を過ぎて1 km進むと、尾根の頂上に到達する。そこにある遥拝殿からは、秩父と周辺の山々の壮大な景色を眺めることができる。遥拝殿は、参拝者が神社まで足を運ばなくても妙法ヶ岳から遥拝できるようにと建てられた。遥拝殿を過ぎたところに、神社の境内への側入口を示す大きな鳥居がある。表参道は門を通り抜けて左に曲がり、神社の正面入り口まで曲がり道が続く。表参道コースは、600メートルを超える登り道があり、その一部は非常に急である。休憩を摂りながらハイキングをすると、通常3時間くらいかかる。